

○菊地恵一委員長 予算特別委員会を再開いたします。

休憩前に引き続き、総括質疑を継続いたします。

立憲・無所属クラブの質疑を行います。

なお、質疑時間は、答弁を含めて十分です。熊谷義彦委員。

○熊谷義彦委員 早速質問に入らせていただきます。LPガス問題で二回にわたって質問していますが、前回の答弁を受けて質問いたします。前回のLPガス支援に関わり、全ての事業者の協力を得ることができたのかどうか、まずお聞きいたします。

○高橋義広復興・危機管理部長 前回の支援事業では、それまでの支援事業の教訓を踏まえまして、御協力いただけなかったLPガス事業者に対して趣旨や制度を個別に説明して協力を得られるように努めました。比較的事業規模が小さい事業者においては、やはりなかなか事務負担が大きいということもありまして、前々回よりは改善いたしました。が、全ての事業者の協力を得ることはできませんでした。

○熊谷義彦委員 だいたい九割方、御協力いただいたというような話も漏れ伝わって聞いておりますが、残りは多分二、三者ではないのかなというふうに思います。そうすると今回は協力いただけなかった事業者に対してどのような手だてを打っていますか。

○高橋義広復興・危機管理部長 前回御協力いただけなかった事業者の数でございますけれども、二十八事業者ほどございます。基本的には前回と同じような形になりますけれども、やはり個別に訪問して御協力いただくような説明をして、何とか御参加いただけるようにしていきたいと思えます。

○熊谷義彦委員 私の予想より大分多かったのですが、この二十八者の方々を利用している県民の方々にとっては不本意だろうというふうに私は思います。それに対して、県として何ができる——例えば事務作業が煩雑でできないというところであればお手伝いすると、LPガス協会から派遣してもらってその事務作業をやってもらうとか、いろんな手だてを講じることができるんだろうと思います。そこまで踏み込んで今お考えですか。

○高橋義広復興・危機管理部長 個別の事業者の事情等については私も細かく承知はしておりませんけれども、できるだけそういったサポートができるような体制を整えていきたいと思えます。ただ一方で、そういうところに手厚くすることによって、やはりそ

の事務経費補助がどうしても厚くなるということもあります。その辺のバランスをどのようにとっていくのか。その辺りは今後検討していきたいと思います。

○熊谷義彦委員 知事、ちよつと部長の答弁で私は分からないのだけでも、支援を手厚くすればするほど事務手数料がかかるからできませんよみたいな話をなさったよね。

それは違うんだろうと思うのね。やはり県民に対してどのようにして支援していくのかを考えるのが行政の役割なので、知事、どうですか。今の発言を聞いて。

○村井嘉浩知事 事業者の皆さんに協力していただかなければ、なかなか実施は難しいということでありまして、このスキームで何とか理解いただけるように更に努力してまいりたいというふうに思います。その上で、事業者の皆さんの声をしっかり受けて、次の対策というものをよく検討してまいりたいというふうに思います。

○熊谷義彦委員 二回も同じことを質問して同じような答弁なので、少しは前進したの分かるのだけれども、まだまだ課題があるなという思いを強くしております。その課題解決のために今回は一〇〇%できることを期待していますので、期待に応えられるように頑張っていたらいいというふうに思います。それから、このLPガスを支援したことこの証明、いわゆる県民の方々が本当に県からあるいは国から頂いたものに対して感謝しているということを理解、納得ができるような証明が私は必要だろうというふうに思います。前回もこのことは指摘したのだけれども、そのことの証明はどのようになさるつもりですか。

○高橋義広復興・危機管理部長 LPガスの事業者からの書類の中に、実際にその利用者に対してこういう形で値引きしましたというのをつけていく。事業者の方からの書類にそういった書類をつけてもらうようにしております。

○熊谷義彦委員 前回、支援を受けられなかった県民の方々もいらつしやったので、あるいはこの支援を受けても本当に支援を受けたのかどうか分からなかったと言う方も私の地元でも聞いています。そういった意味では、もっと支援を受けたことが証明できるような手だてをぜひ講じていただければありがたいなというふうに思います。

続いて、フードバンクのほうに移りますが、フードバンクの活動状況をちよつとお聞きしたいのですが、フードバンクは調べてみると五団体ぐらいは宮城県内にあるようですが、この活動状況及び県内で正確には何団体ぐらいのフードバンクが存在している

のですか。

○志賀慎治保健福祉部長 フードバンクの団体ですが、活動を行うに当たって特段の許可や届出といったものが必要とされていないため、正確な数を把握することができない状況ではありますが、様々な情報等を調べてみますと県内で十団体ぐらいが活動しているものと承知しております。そのうち、七つの団体が昨年度同様の事業で実施した県の事業の補助を受けて活動されておりまして、延べで七千件を超える支援を行っていたのだといったことになってございます。（「それ以上踏み込まなくていい」と呼ぶ者あり）

○熊谷義彦委員 余計なことを答えなくていいから。正確にはその十団体、七団体が活動していることを把握しているということですが、この七団体なりあるいは十団体なりが県内の全ての地域を網羅して活動なさっているというふうに理解なさっているのか。

○志賀慎治保健福祉部長 活動の拠点は県内で少なくとも六つの市に存在してございますけれども、昨年度補助した団体の中には地域を限定しない活動範囲を持ってやっていただいております。七千件と答えましたけれども、そういった中で県内くまなく対象にしていたというふうには承知してございます。ただし、やはり濃淡がございます。午前中に答弁したとおり仙南地域での活動がちょっと手薄だといったことがありますものですから、今回そこにかさ増しをして、てこ入れするような形の制度設計をいたしたところでございます。

○熊谷義彦委員 濃淡がある、そして仙南のほうの活動範囲が少ないみたいな話だったのだけれども、栗原地域——私の地元でも何か所か聞いてみれば、フードバンクではなくて子ども食堂があるものだから聞いてみたんだけど、次に移りますが、フードバンクと子ども食堂の連携がうまくとれていないのではないのかな。いわゆるフードバンクに対して子ども食堂側から支援を求めることがなかったことがあったんです。だからその連携がとれていないと今回の事業予算もうまく機能しないのではないかと思っているのですが、そこはどのように考えておりますか。

○志賀慎治保健福祉部長 子ども食堂は昨年の八月時点ですけれども、県内の二十八の市町で百九十八か所できていると——子ども食堂は食品衛生上の届出が必要なので数が

大体分かるといったことでございました。その後、四つの町にも設置される予定になっておりますので取組は着実に広がっておりますが、御指摘のとおり、子ども食堂が増える一方でフードバンクの活動範囲とのマッチングがうまくいってないところも多少あるかもしれませんし、自主的な取組をして頑張っていらっしゃる子ども食堂の情報がよく届いてないとか、ひよつとしたらそういった状況もあるかもしれませんので、今回の事業を契機にそういった周知のほうにも力を入れてまいりたいというふうに思います。

○熊谷義彦委員　ぜひ、子ども食堂とフードバンクがうまく連携して、この予算がうまく消化できるように特段のお計らいをしていただきたいというふうに思います。どうも、その機能が現時点ではうまく機能してないのではないかとというふうに思います。それであと一分なので知事に最後に聞いておきますが、このフードバンクとか子ども食堂がどんどん増えている。日本人の慈善的な思いでこういったものが増えていくことは理解するんだけど、逆に言えば本来は政治の貧困、いわゆる政策の貧困がこうしたフードバンクや子ども食堂、それに加えて、経済格差の中での生活困窮者、そういった方々が増えているがゆえにこういったものが必要になってくるという社会は、私はある意味で間違っているというふうに思うのだけれども、知事はどのようにお考えですか。

○村井嘉浩知事　私はそういう考え方もあると思いますけれども、逆に行政ができない部分をそういったNPOであったりあるいは民間の団体がうまく穴埋めしていただき、カバーしていただいているということ、こういう民間の自然な発意によって活動していただけるといいう、それも大変ありがたいことだと思っております、それを今度我々がやりやすいようにサポートしていく。こういう仕組みも作っていくということが今後大切なのではないかなというふうに思っております。

○熊谷義彦委員　時間厳守で終わります。